

つたのミニネタコーナー

ミニネタ
No.25

卒業式の意義を教える

卒業式シーズンになりました。卒業式の指導に苦労されている学校も多いと聞きますが、一方でビシッと締まったすばらしい式があるとも聞きます。その差が生まれる要因のひとつは、子どもたちの自覚の差だと考えられます。

卒業生に次のように聞きます。「卒業式は行わねばならないと法律で決まっていると思いますか?」

【子どもへの話】

答えは「NO」です。法律には、「校長は、小学校の全課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与しなければならない」とはありますが、「卒業式を行わねばならない」とは書かれていません。

だから、校長先生から教室で手渡していただいてもいいし、郵送でもいいのです。ではなぜ保護者や地域の代表者、教育委員会の方を招いて

わざわざ卒業式を行うのでしょうか?

それは「みなさんが支えて下さったおかげでここまで力がつきました」という姿を、感謝の意味をこめて披露するためなのです。卒業式は、「入場」「起立」「礼」「着席」「返事」「証書授与」「校歌斉唱」「答辞」などの活動を通じて、支えて下さった方々に感謝の心を表す場なのです。さあ、みなさんはどんな姿を見せるべきなのでしょう?」

【話の後に…】

「卒業生が見せるべき姿」を子どもたちから出させ、全員で共有します。このような事前指導を行うだけで、練習も本番も変わってくるものです。

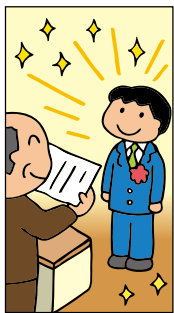


イラスト | 吉田朋子